

中国人2人 看護師合格

氷見の老人施設



長谷川施設長(左)から祝福を受ける胡さん(中央)と張さん
|| 氷見市鞍川

励みになる」と頑張りをもたらえた。

合格したのは、胡瑶さん(26) || 湖北省出身 || と、張芸荃さん(25) || 江蘇省出身 ||。2人は中国で看護師の資格を取得し、介護技能実習生として2019年にアルカディア氷見に入った。施設では重度認知症のお年寄りの介護に当たっている。

2人は日本語能力検定1級を取得したことを契機に看護師資格の取得を目指した。勤務がある日でも宿舎で1日4〜5時間、勉強を重ねた。

2人は実習が11月に終了

「職員の励みに」

氷見市鞍川の老人保健施設アルカディア氷見に勤務する中国人女性2人が2

月に行われた看護師の国家試験に合格した。日本語の壁などから外国人の合格は難しいとされ、長谷川施設長は「他の職員

した後は中国に戻る。その後について、「看護師として日本で働いてみたい気持ちはある。両親と話をして将来について考えたい」と語った。

中国人実習生2人合格

看護師
国家試験



長谷川施設長（左）からグータッチの祝福を受ける胡さん（中央）と張さん

老健施設関係者が祝福

氷見

氷見市鞍川の老人保健施設「アルカディア氷見」が受け入れている

中国人介護技能実習生2人が日本の看護師国家試験に合格し、施設関係者の祝福を受けた。

2人は江蘇省出身の張芸荃さん(25)と湖北省出身の胡瑶瑶さん(26)。江蘇省の南通大看護学部を卒業し、中国の看護師資格を取得した。日本の進んだ介護ノウハウを学ぼうと2018年11月に来日。アルカディア氷見で19年1月から実習を始めた。認知症のお年寄りに対応するため氷見弁を駆使し、すっかり周囲に馴染んだ。

日本の看護師試験挑戦を

思い立ったのは、張さんが昨年9月、胡さんが今年1月に、受験の前提となる日本語能力検定の最高レベル「N1」に合格したのがきっかけだった。

2人は仕事を終えて宿舎に帰ると毎日4、5時間の猛勉強を続けた。中国の試験と内容が違おう上、薬の名前にカタカナが多く、苦労したという。今年2月に受験し、3月26日に合格の朗報を受けた。

長谷川施設長(71)は「一生懸命勉強し、めきめきと力を付けた。一般職員の模範」とたたえる。

2人は11月に3年間の実習を終え、帰国する。「合格はとてもうれしい。再び日本に戻って看護師の現場を学びたい気持ちもあるが、両親と相談してよく考えたい」と声をそろえた。